

## 第4章 特別活動

### 第1 本指導実践事例集の活用について

#### 1 作成の基本的な考え方

本資料は、中学校学習指導要領及び同解説並びに埼玉県中学校教育課程編成要領及び同指導資料、同評価資料の趣旨に基づいて作成した。

今回の中学校学習指導要領では、特別活動がよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることを一層明確にするために目標に「人間関係」が加えられた。さらに各活動及び学校行事の目標により、それぞれの教育活動としてのねらいと意義が明確に示された。本資料も、望ましい人間関係を築くこと及び育てるべき資質や能力を明確にすることを意識して作成した。また、特別活動の特質及び方法原理である「望ましい集団活動」について「事前の活動」→「本時（当日）の活動」→「事後の活動」の例を示し、それぞれの場面での評価についても実践につながることを意識して具体的な評価の事例を示した。

さらに、言語活動の充実等、中学校学習指導要領の改善事項に加え、小学校と中学校の円滑な接続のために「小中連携の充実」に向けた事例を示した。

#### 2 取り上げた内容

##### (1) 学級活動の事例

活動内容「(1)学級や学校の生活づくり」では、体育祭における学級対抗の全員種目を成功させるための話し合い活動の事例を取り上げた。言語活動の充実の視点から、生徒が折り合いをつけて話し合い、互いのよさを認め、信頼し支え合うなどの人間関係を築くための指導と評価のポイントを示した。

活動内容「(2)適応と成長及び健康安全」では、小学校と中学校の円滑な接続に向け、中学校生活の見通しをもたせ、期待感を高めることができるよう「中学生となって」を題材とした事例を取り上げた。入学当初の個人目標を決定するに当たり、小学校高学年との接続を図ることで生徒が希望や目標をもって学校生活を送ることができるようになるための指導と評価のポイントを示した。

活動内容「(3)学業と進路」では、自宅学習による不得意教科の克服のための方法について、共通する悩みを話し合い、実践に結び付けるために「自主的な家庭学習」を題材とした事例を取り上げた。互いの自宅学習への悩みや効果的な学習方法を知ること、自らの自宅学習の方法を見直し、実践を通して自信を高めるための指導と評価のポイントを示した。

##### (2) 生徒会活動

生徒会活動では、「小中連携」に視点を当てた事例として、小学校6年生に対する「生徒会活動のオリエンテーション」を取り上げた。生徒会役員を中心に全校生徒で取り組むことをとおして、小学生の中学校生活への不安を取り除くとともに、自校への連帯意識や所属感を深め、社会に参画する態度や自治的能力を育成するための指導と評価のポイントを示した。

##### (3) 学校行事

学校行事では、5種類の学校行事のうち、(3)健康安全・体育的行事としての避難訓練及び(4)旅行・集団宿泊的行事として自然教室の二つの事例を取り上げた。避難訓練では、非常事態に際して迅速・的確に判断して対処する能力を養うための事前指導や当日の指導のポイント、事後指導での評価方法について示した。また、自然教室の事例では、「体験活動の充実」のために、事前にねらいや意義を十分理解させ、意欲をもって活動できるよう配慮するとともに「言語活動の充実」の視点から事後の新聞作成を取り上げた。

#### 3 本資料の活用にあたって

本資料は、埼玉県教育課程指導資料及び同評価資料を補う性質のものである。本資料及び指導資料、評価資料を活用し、指導と評価の充実を図ることが大切である。その際、一人一人の生徒のよさや可能性を積極的に認めるとともに集団の発達や変容について適切に評価し、指導の改善に生かすという視点が重要である。そのため、各事例の中で評価の場面における「目指す生徒の姿」や「十分満足できる状況」を分かりやすく示した。

各学校では、本資料を参考に生徒や地域の実態に合わせ、各活動・学校行事において「目指す生徒の姿」を具体的に示し、適切な評価により、指導の改善を図っていくことが大切である。

## 第2 実践事例

※評価の観点は以下のように略して表記する。次頁以降も同様である。  
 (関)・・・集団活動や生活への関心・意欲・態度  
 (思)・・・集団や社会の一員としての思考・判断・実践  
 (知)・・・集団活動や生活についての知識・理解

### 事例1 学級活動 体育祭の成功に向けた話し合い活動の指導と評価の事例

本事例は、体育祭における学級対抗の全員種目を成功させるための話し合い活動である。話し合い活動を通して、運動が得意な生徒や勝利にこだわる生徒、運動が苦手な生徒や体育祭の活動に無関心な生徒などが一体となり、取組に必要な学級の風土を醸成しながら一人一人の活動意欲を高める。こうした実践を通して、よさを認め合い、信頼し支え合うなどよりよい人間関係を築き、学級生活の充実・向上を図っていくための話し合い活動である。

#### 1 議題 「大縄跳びを成功させよう」(内容1)学級や学校の生活づくり ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

#### 2 議題選定の理由

本学級ではこれまで学級活動委員会が中心となり、一人一人のよさが生きる議題(「教育実習生のお別れ会を成功させよう」「修学旅行の学級レクを決めよう」「係活動を発展させよう」など)で話し合い活動を行ってきた。その結果、生徒の活動意欲や集団や他者に関わろうとする意識が高まったり、学級内の人間関係をよりよくしたりする言動が顕著になってきた。しかし、互いのよさを十分に理解できず、固定化した人間関係の中で過ごしている生徒も見受けられる。学期末に行った学級生活のアンケートでも「一部固定化している生徒たちが気になる」「体育祭でみんなが団結できるか不安」などの意見があった。

本議題は、学級生活アンケートから学級の課題を明確にし、これまでの成果を実感させながら、『中学校生活最後の体育祭を成功させたい』『学級の団結力や一体感が必要とされる大縄跳びで勝ちたい』という生徒の願いを生かし、議題化を図ったものである。体育祭は、学級としてのまとまりを高め、生徒一人一人にとって思い出深い行事となることが多い。一方、大縄跳びなどの学級対抗の種目は、運動が得意な生徒や苦手な生徒、勝ちにこだわる生徒や無関心な生徒などの間で練習中に問題が発生したり、仲違いが生じたりするなど学級としての真価が問われる場面も出てくる。そこで、話し合った成果を生かし、互いに協力しながら支え合って活動していく態度を育成するとともに学級の課題をよりよく解決しながら達成感を味わわせることで、学級生活がさらに充実できると考える。

#### 3 指導のねらい

- 学級の一員としての自覚を高め、学級に対する所属感や連帯感を深める。
- 互いのよさを認め、支え合いながら協力して実践する態度を育む。

#### 4 評価の観点と評価規準

観点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
評価規準	学級生活の向上や諸問題の解決に関心をもち、体育祭へ向けた活動に自主的、自律的に取り組もうとしている。	学級の一員として自己の役割と責任をもち、諸問題の解決へ向けて多様な意見を生かし合い、その方法を考え判断し、目標の実現に向けて互いに信頼し支え合って実践している。	体育祭を成功させる意義やそれに向けて学級で取り組むことの意義、諸問題の解決法について理解している。

#### 5 展開の過程

##### (1) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	資料① 体育祭に向けてのアンケート		目指す生徒の姿と評価方法
			指導上の留意点		
9月2日 (金)	帰りの会 (学級全員)	・体育祭に向けてのアンケート調査を行う。	・落ち着いた態度で真剣に答えられるようにする。		
9月6日 (火)	放課後 (学級活動委員会)	・アンケート調査を集計し、議題を選定する。 ・提案理由を練り上げ、本時の活動計画をたて話し合いの柱を検討する。	・生徒の思いを聞きながら、本時の流れなどを検討し、活動の見通しをもてるようにする。		・話し合い活動が深まるよう自主的に準備を進めようとしている。 (関)【観察】【評価カード】
9月8日 (木)	帰りの会 (学級全員)	・学級活動カードを配布し、自分の意見をもつ。	・大縄跳びが「成功」したイメージを学級全体で確認する。 ・発想のヒントとなる活動例を紹介する。		・議題に関心をもち、自主的に自己の考えをまとめている。 (関)【学級活動カード】

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア 本時の活動テーマ 「お互いを認め、支え合い、団結して大縄跳びに取り組もう」

イ 本時のねらい

○体育祭に向けた学級の取組に関心をもち、互いの考えを生かし合意形成を図る。

○学級の一員としての自覚を深め、体育祭に向けての活動意欲を高める。

ウ 展開

	活動の内容	指導上の留意点 ◎目指す生徒の姿と評価方法(評価の観点)【評価方法】	資料等
活動の開始	1 開会の言葉 2 学級活動委員の紹介 3 議題の発表・確認 4 提案理由の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級活動委員会で検討された過程、経過を示したうえで、本時の概要を学級全体に説明する。</li> <li>提案理由を補足しながら、学級への所属感が深められるような話し合いになるように助言する。</li> </ul>	
	<p>【提案理由】これまで私たちのクラスは有言実行を合言葉に団結すべきときには団結し、何事にもまとまって取り組んできました。しかし、日常生活では未だ固定化した人間関係の中で生活しています。これはまだ互いのよさを理解できず絆が深まっていないことが原因だと思えます。そこで、中学校生活最後の体育祭で行われる大縄跳びを通して、学級の課題を解決し、クラスの絆をさらに深めるためにお互いを認め、支え合い、団結して練習していくことが必要と考え、提案しました。</p>		
活動の展開	5 教師の話		
	6 話し合い (1) 大縄跳びを成功させるための作戦を考えよう。 <b>資料③ 評価資料例(1) 学級活動カード</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の経験などを踏まえながら、様々な角度から考えるように助言する。</li> <li>◎提案理由に基づいて、互いのよさを生かし合いながら大縄跳びを成功させるための具体策を考え、理由を示して意見を述べている。(思)【観察】【学級活動カード】</li> </ul>	学級活動カード
<p>【本時の話し合いの様子】 (作戦の一つの案として「縄を早く回す」という意見に対して) S1：回数を多く飛ぶということは大切だと思います。僕も〇〇くんと同じで最後の体育祭だから勝ちたいです。でも運動が苦手な人もいます。提案理由にもあるようにクラスがさらに団結するために大縄跳びはそういった人のことも考えて作戦を考えるべきだと思います。 S2：僕も〇〇くんと同じで勝ちたいです。でも現実的に不安を感じている人もいるので縄の早さはこれまで通りにして「縄は大きく回す」「回数をみんなでこれまでにないくらい叫びながら飛ぶ」また、本番は緊張すると思うしそれでは力も出ないので「始まる前に円陣を組んで手をつなぐ」がいいと思います。(略) S3：僕は運動が苦手だけど、このクラスのために、みんなのために一生懸命がんばります！</p>			
活動のまとめ	(2) 役割分担を決めよう。		
	7 決定事項の確認 8 自己評価・感想記入 9 教師の話 10 閉会の言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いを通して、自己の考えや思いを自分の言葉で適切に表現するとともに、考え方の違いや多様性を超えて集団として意見をまとめていくことが大切である。そのために、他者の意見のよさを生かしたり、共感したりしながら自己の考えや集団の考えを発展させ、折り合いをつけていく話し合いとなるように指導していく。</li> <li>話し合いの流れを方向づけた発言や学級活動委員の活動などを称賛するとともに実践へ向けて活動意欲を高めることができるように助言する。</li> </ul>	

(3) 事後の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
9月12日(月)～22日(木)	放課後等(学級全員)	・話し合い活動における決定事項に基づいて活動する。	・話し合い活動での決定事項を実践しているかどうかを見届け、助言する。	・目標の実現に向け、互いに信頼し支え合って決定事項を実践している。(思)【観察】
9月24日(土)	体育祭当日	・話し合い活動や練習の成果が実るように精一杯活動する。	・これまでの取組を想起させ、生徒の活動意欲が高まるよう助言する。	
9月30日(金)	学級活動(学級全員)	・活動過程や体育祭当日を振り返り、互いのよさを称賛するなどしながら今後の学校生活の在り方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の活躍について、具体例を示して称賛する。</li> <li>成果と課題を具体的に記入するよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭の成功に向けて学級で取り組むことの意義について理解している。(知)【振り返りカード】</li> <li><b>資料④ 評価資料例(2) 振り返りカード</b></li> </ul>

6 資料等

① 体育祭に向けてのアンケート (例)

体育祭に向けてアンケート

3年 組(氏名)

1 中学校生活最後の体育祭に意気込み(決意)を自分の言葉で表現してみよう。

最後の体育祭は、みんなで頑張ってみんなで泣けるような体育祭にする!

2 1学期末の学級生活アンケートで明らかになった学級の課題を解決するために、学級として特に力を入れて取り組んでいきたい種目は何か?その理由も書いてください。

種目(大縄跳び)

理由: お互いのことを考えて、みんなの気持ちを一つにして取り組まないとうまく跳べないから。

3 学年種目「ミラクル百足」や全体種目「大縄跳び」が【学級として成功した】とはどんな状態をイメージしますか?自分の考えを書いてください。

全員が団結して、やり遂げた達成感を一人一人が味わえるような状態こそ成功したと言えると思います。

② 学級活動委員の評価カード(例)

9月〇日 学級活動委員会 議題「大縄跳びを成功させよう」

◎(よくできた) ○(できた) △(あまりできなかった)

役割(司会) 氏名(〇〇 〇〇〇)

質問内容(評価項目)	評価	感想
学級の実態を見つめ、課題意識をもち議題の選定を行うことができた。	◎	司会として、流れや進め方が分かった。
提案理由や話合いの柱を整理するなど、役割分担を含めた活動計画を進んで立てることができた。	◎	本番では話合いのキーワードをもとに進めていきたい。
活動計画の作成の仕方や話合いの進め方、自己の役割を理解できた。	○	自分の意見を発表していき合いにしましょう。
担任から学級全体をよく考え、友だちの意見を生かしながらしたね。本番でもみんなのいいところを生かした。	◎	

③ 評価資料(1) 学級活動カード(例)

議題	大縄跳びを成功させよう		
提案理由	これまで私たちのクラスは有言実行を合言葉に団結すべきときには団結し、何事にもまともに取り組んできました。しかし、日常生活では未だ固定化した人間関係の中で生活しています。これはまだ互いのよさを理解できず絆が深まっていないことが原因だと思います。そこで、中学校生活最後の体育祭で行われる大縄跳びを通して、学級の課題を解決し、クラスの絆をさらに深めるためにお互いを認め、支え合い、団結して練習していくことが必要と考え、提案しました。		
役割分担(5班)	司会	黒板記録	ノート記録
時間	話合いの順序	担当者	自分の考え・意見
5分	1 開会の言葉 2 学級活動委員の紹介 3 議題の発表・確認 4 提案理由の説明 5 先生の話	〇〇さん " 〇〇くん 提案者	(1)について ..... みんなで円陣を組んで思いを叫ぶ 理由:お互いの気持ちを理解し、気持ちを一つにしないと成功とはならないから
30分	6 話合い (1)大縄跳びを成功させるための作戦を考えよう。		(2)について ..... 思いを形にする「記録係」 理由:時間が経って、みんなの気持ちに
10分	(2)役割分担を決めよう		..... づれができていきけないから
5分	7 決定事項の確認 8 自己評価・感想記入 9 先生の話 10 閉会の言葉	〇〇さん " 〇〇くん	決定事項 (1)◎本番前に円陣を組んで手をつなぐ ◎縄を大きく回す(回数を叫ぶ) ◎思いを形に表し、掲示する (2)◎記録・掲示係 ◎やさしさ部 私の実践目標、決意 運動は苦手だけど、 クラスのために練習から声を出していく
	自己評価(本日の話合いの反省)	全体を通しての感想	
	1 提案理由に沿って考えられた(学級の生活目標) (A)・B・C 2 自分の意見を言えた (A)・B・C 3 他の人の意見を聞いてそのよいところを生かした (A)・B・C 4 決定事項を理解し、活動意欲が高まった(折り返しがつけられた) (A)・B・C	今日の話合いでは〇〇君の発言がみんなの気持ちをまとめた。うちのクラスが団結するには手をつなぐということが価値を見出すことは大切だと思った。そこにたどりつくまでの練習で、僕もクラスの一人として練習から声を出して男女問わず声をかけていきます。勝って涙を流したいと思いました。	
	担任 とても深い話合いでした。みんなの思いを心に刻みながら、決まったことをみんなで実践してみんなで感動できる体育祭になりました。先生も今から楽しみです。		

事前の活動

「気持ちを一つにしないと成功とはならない」「気持ちにずれができてはいけない」といった記述から大縄跳びを成功させ、気持ちを一つにして体育祭に取り組もうとする意欲等を感じ取ることができる。自主的に自己の考えをまとめており、【関心・意欲・態度】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

事前の活動

「司会として本番では話合いのキーワードをもとに進めていきたい」といった記述から学級活動委員としての自覚をもち自主的に準備を進めようとしていることが分かる。【関心・意欲・態度】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

本時の活動

〇〇君の意見のよいところを生かして「クラスが団結するためには手をつなぐことが大切だ」「クラスの一人として練習から声を出して男女問わず声をかけていく」などといった記述から【思考・判断・実践】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

事後の活動

「話し合ったことを生かして協力して練習できた」「話し合ってみんなで実行して涙を流せた」といった記述から【知識・理解】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

本時の話合い活動の自己評価を行うことで、本指導の評価の参考にしたり、次回の学級活動の指導に生かしたりすることもできる。

中学校生活最後の 体育祭を振り返って...

[1] 中学校生活最後の体育祭を振り返って...率直な感想を書いてみましょう。

最後の体育祭は、優勝することができてうれしかった。特に、大縄跳びでこれまでの〇〇中学校の記録を塗りかえて新記録をだしたこともうれしかった。でもそれ以上にみんなの気持ちが一つになって、話し合ったことを生かして協力して練習できたことが何よりうれしかった。練習段階で弱音をはいていた人もいたけど、お互いが声をかけて乗り越えることができた。それが、全員リレーや学年種目にもつながって優勝できたのだと思う。体育祭に向けて、話し合ってみんなで実行して涙を流せたことがすごくいい思い出になった。うちのクラスの絆の深さを実感した。次の校内音楽会では「青葉の歌」で全校の前でクラスのよさをだして金賞をとりたい。

[2] 体育祭までの取組(過程)について自分の言葉で振り返ろう。

① 体育祭までのクラス全体の取組(内容・態度など)はどうでしたか?  
最初はバタバタだったけど、話し合ったことでクラスの心が一つになった。その後の練習では、みんなが前より声を出すようになって楽しかった(特に大縄跳びや全員リレー)。

② それに対して、自分の取り組み方(内容・態度など)はどうでしたか?  
一生懸命に取り組むことができた。クラスのために頑張ることができた。

[3] 体育祭を通して...学んだことは何ですか?  
お互いを信頼して、団結すること

[4] 学んだことを日常生活にどのように生かしていきたいと思いますか?  
いろんな人とかかわって話をしていく。  
音楽会に向けて、練習から団結して最高の合唱をつくりたい。

④ 評価資料(2)

振り返りカード(例)

## 事例2 【学級活動】 中学校入学当初の不安の解消をめざした指導と評価の事例

本事例は、中学校入学当初において新しい友達や教師との出会いの中で、不安や悩みを抱える生徒一人一人が、新たな目標をもって学校生活を送ることができるようにするための取組である。中学校入学当初は、新たな友達との出会いの中で不安や悩みを抱えることが多い。様々な不安をお互いに共有し、その解決のために「なりたい中学生像」を語り合い、新たな中学校生活の目標を設定していく活動である。

### 1 題材 「中学生になって」

内容(2)適応と成長及び健康安全 (ア 思春期の不安や悩みとその解決 オ 望ましい人間関係の確立)

### 2 題材設定の理由

中学校へ入学した当初の生徒は、新たな友達との出会いの中で集団生活を送ることになる。また、教科担任による授業や新しい教科、部活動での先輩・後輩の関係など、新しい学校生活への興味・関心を高めていき、新たな決意や目標をもちやすい時期でもある。しかし、生徒同士や対教師との人間関係や思春期における課題、経験していないことへの不安を抱く時期でもある。また、いわゆる中1ギャップにより、新しい生活環境や人間関係につまずいて、学校生活への不適応を起こすことも少なくない。そこで、いわゆる中1ギャップによる学校への不適応等に十分配慮するとともに、小学校高学年（6年生）の学級活動（題材「もうすぐ中学生」等）との接続も図り、不安や悩みを解消し、生徒に希望や目標をもたせ、達成感を味わわせることができるように工夫し、中学校生活を送れるように指導することが重要となる。

そこで、本授業においては、「この学年・この学級」についての理想を語り合い、生徒が、一年間の努力目標を「知徳体」をおさえながら設定していくことで、今後の中学校生活の不安や悩みを解消し、夢や希望をもって送れるようにしていきたいと考え、本題材を設定した。

### 3 指導のねらい

- 中学校入学の喜びの中で、新しい中学校生活への不安を取り除き、これからの生活に期待感を高めるようにする。
- 生徒、保護者、教師の願いを生かしながら、中学生としての理想の学年・学級生活を考えることができる。
- 生徒一人一人が、個人の努力目標を決定し、それに向かって努力しようとするができる。

### 4 評価の観点と評価規準

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価 規 準	新しい学級に対する関心をもち、意欲的に中学校生活を送ろうとしている。	中学生としての自覚をもち、中学生としての理想の姿を考え、決意を新たに目標を立て、実践している。	中学生として、学級や学校の生活上の心構えを理解している。

### 5 展開の過程

#### (1) 事前の指導と生徒の活動

<小中の接続として>

- 小学校6年生の3月に「もうすぐ中学生」のような題材で実践しておくことが望ましい。また、生徒会・児童会の連携を図り、中学校への体験入学のような活動ができることが望ましい。

<異年齢交流の一環として>

- 現2年生から前年度末に「後輩へのメッセージ」を記入し、入学式当日に廊下等に掲示し、中学校生活に対する夢や希望を抱かせるようにするためのメッセージを作成する。

期 日	活動の場	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価の方法
4月〇日 (○) 入学式当日	帰りの会 (学級全員)	・保護者へ「こんな中学生になってほしい」アンケートを依頼する	・家庭で「どんな中学生になりたいか」を話し合っておくように伝える。	
4月〇日 (○)	学級活動 (学級全員)	・担任の願い（こんな学級にしたい）を聞く。	・「こんな中学になってほしい」ことを伝える。	・新しい学級・仲間に関心をもち、中学校生活を送ろうとしている。（関）【観察】
4月〇日 (○)	学級活動 (学級全員)	・「こんな中学生になりたい」願いを考え、プリントに記入する。	・学年集会等でガイダンスを行い、「理想とする中学校生活」の意味を十分説明し、一人一人が意見をもてるようにする。	・中学生としての理想の姿を考え、自分のなりたい中学生像をもつことができる。（思）【プリント】

資料①「生徒アンケート」

※本来であれば、学級活動委員会を組織し、生徒の活動を取り入れたいが、入学したばかりの時期のため教師主導での活動になる。

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア 本時の活動テーマ「中学校生活の目標を考えよう」

イ 本時のねらい

○新しい中学校生活への不安を取り除き、これからの生活に意欲がもてるようにする。

○中学生としての理想の学年・学級生活を考え、生徒一人一人が、個人目標を決定することができる。

ウ 展開

	活動の内容	指導上の留意点		資料等
		◎目指す生徒の姿	(評価の観点) 【評価方法】	
活動の開始	1 「中学生になって」アンケート結果の確認 ○楽しみなこと・不安なことについて話し合う。	・アンケートの集計資料から、みんなの期待と不安の気持ちについて考えられるようにする。 ・資料を通じて、自分の問題としてだけでなく、学級全員の共通の問題として気づかせ、意欲を高める。		集計資料
活動の展開	2 理想の中学生についての話し合い ○「みんながなりたい中学生」について話し合う。	・先輩からのビデオメッセージで意識を高める。 ・生徒の意見を大切に、自由に発表できるようにする。 ◎中学生としての理想とする学級生活を考え、意見を発表することができる。 (知)【観察】		先輩からのメッセージ
	<p>【本時の話し合いの様子】</p> <p>S1:勉強、運動、友達との時間を有効に使い、休み時間や学習時間の切り替えがしっかりできるようになりたい。</p> <p>S2:毎日忘れ物をせず、やるときはやれるしっかりできる中学生になり、新しく始まる部活でも先輩達に近づけるように練習し、責任のある行動をとれる中学生になりたい。</p> <p>S3:人として、〇〇〇中の生徒として、人の嫌がることはせず、当たり前なのが当たり前でできる中学生になりたい。また、1年〇組のメンバーとして、みんなと助け合って、明るく元気に生活できるようにしていきたい。</p> <p>生徒一人一人が、自分の不安や悩みを見つめながらも、その解決を目指し、夢や希望をもってこれからの学校生活を送るための、具体的な努力目標が設定できるように、多くの意見を発表することが大切である。そのためにも、自分自身が抱える不安や悩みについて率直に語り合えるようにし、他者の意見を聞きながら、自らの解決のための手だてや方法について共に考えていくように指導していく。</p>			
	○保護者・教師の願いを掲示する。 十分に時間をとり、自己決定させ、今後のよりよい学級生活をめざす目標とさせたい。	・生徒一人一人の願いや保護者、学校(教師)の願いを提示する。 ・生徒の発表を聞きながら、「知徳体」に分類し、一つの言葉にまとめていくようにする。		生徒の願いの模造紙 保護者の願いの短冊
活動のまとめ	3 「自分のめあて」(個人の努力目標)の設定 ○各自で努力することを記入する。 ○自己評価の記入 4 「教師の話」 ○学級目標や個人の努力目標の実現に向けて、がんばろうとする気持ちをもつ。	・「個人目標カード」に努力目標を記入する。 ・具体的で前向きな目標にする。(思)【個人目標カード】 ◎中学生としての理想の姿を踏まえ、努力すべき目標を決定することができる。(関)【自己評価カード】 ・目標を実現するためには、日々の学校生活が大切であることを意識づける。	資料②「個人目標カード」 資料③「自己評価カード」	個人目標カード 個人目標の記述から、(思考・判断・実践)の観点についての資料となる。

(3) 事後の指導と生徒の活動

期 日	活動の場	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価の方法
4月〇日(〇) ～ 4月30日(〇)	帰りの会(学級全員)	・一日の活動の振り返りをプリントに記入する。 資料④「振り返りカード」	・自分の努力目標について一日の振り返りを行い、翌日への意欲づけにつなげる。	・よりよい学級生活をめざし、自ら決定した目標に対して振り返りを行い、目標の実現のために努力している。 (関)【観察】 (思)【振り返りカード】
4月30日(〇)	帰りの会(学級全員)	・一ヶ月間の活動の振り返りと今後の活動への目標づくりを行う。	・自分の立てた目標に近づくための活動ができたかを振り返る。	・よりよい学級生活をめざし、自ら決定した目標に向かって努力している。 (思)【振り返りカード】

6 資料

①生徒アンケート (例)

**中学生になって!**

1年( )組( )番 氏名( )

○中学生になって楽しみにしていることはなんですか?それほ、どうしてですか?

楽しみにしていること ○部活動	その理由 ○先輩の2、3年生と楽しく、協力して部活動をやっていきたいから。
○クラスの人々と仲良く過ごすこと	○中学生のスタートだし、違う小学校の人もいるから男女関係なく、みんなで楽しく過ごしたいから。

○中学生になって不安に思っていることはなんですか?

不安なこと ○友達関係	その理由 ○中学校でみんなと楽しくできるかとても不安です。だけど今日のクラスの雰囲気を見ていると楽しそうなので、がんばりたいです。
----------------	--

○自分は、こんな中学生になりたい。

○勉強にも部活にも全力投球できる中学生になりたい。
○分からないことをその日のうちに克服できる中学生になりたい。
○様々な学校行事で、友達と協力し合い、一つ一つを成し遂げていける中学生になりたい。
○目標や夢を一つ一つ実現できる中学生になりたい。

事前の活動

「勉強にも部活にも全力投球できる中学生になりたい」「目標や夢を一つ一つ実現できる中学生になりたい」といった記述から、中学校生活に対する意識を高くもち、期待感が大きいことを感じることができる。このことから、【知識・理解】の観点に十分満足できる状況ととらえることができる。

本時の活動

「自分もみんなと協力して、学級を盛り上げ、よりよいものにしていきたい」「自分で決めた目標が、必ず実践していけるように、これからの学校生活を充実させたい」といった記述から、今後の学校生活に対する意欲の高さを見ることができる。このことから【関心・意欲・態度】の観点に十分満足できる状況ととらえることができる。

②「個人目標」カード (例)

[生徒氏名]の目標

生活	学習	運動	読書
○ 自分でやることに責任をもち、二の物事に根気よく向き合っていく。 早寝・早起き・朝ごはんを習慣づける。	○ 自分の意見をまとめ、積極的に挙手する。	○ できない運動でも家で特訓して、できるように努力する。	○ 本が嫌いなので、家でもっと読むようにする。一ヶ月に二冊以上は読むようにする。忙しくても毎日コツコツ読書をする。

3つの項目の他に、自分自身の努力目標にしたい項目を考え、記入する。

本時の活動

「一ヶ月に二冊以上は本を読む」といった具体的な記述から、努力目標を明確にでき、実践につなげることができる。また、一日の振り返りを明確にでき、日々の生活の向上に役立てることができる。このことから【思考・判断・実践】の観点に十分満足できる状況ととらえることができる。

③評価資料 (例)

学級活動記録 自己評価カード ○組○番 ○○○○

アンケートの内容を考え、記入できた。	◎
積極的に自分の考えを発表することができた。	○
仲間の意見をしっかり聞くことができた。	◎
自分の目標を決めることができた。	◎
自分の考えを実践しようとする意欲がもてた。	◎

<活動を振り返って>

S1: 今回の授業をとおり、先輩達も他の人も自分と同じような不安があったので、少し安心できた。みんなの意見を聞いて、自分もみんなと協力して、学級を盛り上げ、よりよいものにしていきたい。また、自分で決めた目標が、必ず実践していけるように、これからの学校生活を充実させていきたい。

④振り返りカード (例)

学級生活振り返り表 (4月)

(学級目標) 「(知) (徳) (体) で表し、学校教育目標の具現化を図る目標を設定する

(個人目標) ○周りのことを考えて、思いやりのある行動をする。(生活) ○授業で学習した所を細かいところまで復習して身に付ける。(学習) ○苦手なことがあっても、できるようになるまで努力する。(運動) ○自分の興味があるものは、積極的にやってみる。(学校生活)

評価の仕方	日	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
		月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
◎・・・よくできた		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
○・・・できた		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
△・・・あまりできなかった		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
×・・・できなかった		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	今日のめあて	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
1) 学級目標を意識して生活できたか。		○	○	◎	○	△			○	◎	◎	◎	○
2) 個人目標を意識して生活できたか。		○	◎	◎	○	◎			△	○	◎	○	◎
3) 今日のめあてを意識して生活できたか。		○	○	○	◎	○			◎	○	◎	◎	○
4) 自分の給食当番ができましたか。		◎	◎	○	○	◎			◎	◎	○	○	◎
5) 自分の清掃当番ができましたか。		◎	○	◎	◎	○			○	○	◎	◎	◎
6) 学級のことを考えた発言ができましたか。		○	◎	◎	◎	◎			○	◎	○	△	◎
7) みんなと協力した活動ができましたか。		△	○	○	◎	○			◎	◎	○	◎	○

(1ヶ月を振り返って)

最初は、部活など新しい体験ができることへの期待と上下関係や勉強などの不安な気持ちもあったので、すごく複雑でした。でも、仮入部や部活見学をしていると先輩もすごく優しくしてくださったし、勉強も細かい所を復習していれば、次の授業でも大丈夫だったので、不安な気持ちは、すくなくなりました。一ヶ月を振り返って中学校生活にも慣れたし、部活にもなじめました。この一ヶ月で、一番印象に残っているのは、先生が「疲れているよね」や「リラックスしていいよ」と声をかけて下さっていたので、すごく安心して学校生活を過ごすことができました。5月から学級の友達に自分から声をかけていき、何事にも積極的に取り組んでいきたいと思えます。

事後の活動

「勉強も細かい所を復習していれば、次の授業も大丈夫だったので、不安な気持ちはすくなくなりました」「5月からも学級の友達に自分から声をかけていき、何事にも積極的に取り組んでいきたい」といった記述から、年度当初の不安の解消と一ヶ月の振り返りにより、翌月の学校生活への意識づけができたことが伺える。このことから【思考・判断・実践】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

### 事例3 学級活動 学習意欲を高める指導と評価の事例

本事例は、家庭学習における生徒の意欲を高める活動である。家庭学習の必要性はどの生徒も感じてはいるものの、継続する辛さを避ける傾向にある。そこで、自分に甘える心や、うまく進められない悩みは仲間も同じように抱えていることを知り、励まし合うことにより個々の意欲を高めていく活動が大切となる。本事例は、全員が「これだ」と思う学習方法を紹介し、紹介された多くの方法から各自がふさわしい方法を見いだしていくことで自己有用感を高め、自信をもたせることができる活動でもある。

#### 1 題材 「自主的な家庭学習」

内容(3)学業と進路 (イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用)

#### 2 題材設定の理由

中学2年生の段階では、一般的には自分にふさわしい学習方法がある程度理解でき、家庭学習が進められる時期である。しかし、本学級の生徒は学習を充実させようとする意識が低く、学習が必要だと感じてはいるものの努力が十分でない生徒が多い。また、家庭学習は宿題をこなすものという生徒もいる。その受け身の姿勢を改善し、意欲的に学習する習慣を身に付け、その継続により達成感や満足感を味わい、学習に主体的に取り組む力を育みたい。現段階で生徒が主体的に学習に取り組めないのは、方法や時間の使い方が分からないことが大きな要因となっている。そこで学習方法を紹介し合い、これまでの自分の方法を見直し、個々の家庭学習をより充実させるために本題材を設定した。

#### 3 指導のねらい

- (1) 自主的に学習に取り組もうとする態度を育てる。
- (2) 全員が「効果的な学習方法」を紹介することで、自己有用感が味わえるようにする。

#### 4 評価の観点と評価規準

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価 規準	学び方を学び、学習することの楽しさを自覚しながら自分にふさわしい学習方法を見だし、意欲的に学習に取り組もうとしている。	不得意教科の克服を目指し、学習方法について意見交換をしながら、各自ができることについて考え判断し、実践している。	主体的に学習に取り組むことの大切さや自分に合った学習方法などを理解している。

#### 5 展開の過程

##### (1) 事前の指導と生徒の活動

期 日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
9月1日 (木)	帰りの会 (学級全体)	・家庭学習に関するアンケートを実施する。	・自分の家庭学習について真剣に振り返ることができるようにする。	資料①家庭学習に関するアンケート
9月2日 (金)	放課後 (学級活動委員会)	・アンケート結果をまとめる。 ・資料を作成する。	・個々の困っていることや悩んでいる気持ちを全体に分かりやすく伝えられるようにする。 資料② 学級活動委員会の評価カード	・全体の意識が高まるように準備を進めている。 (関)【観察】【評価カード】
9月8日 (木)	帰りの会 (学級全体)	・家庭学習等についての悩みを共有する 「効果的な学習方法」のカードを作成する。	・誰もが同じような悩みを抱えていることを知り、ともに努力していこうとする意欲が高まるようにする。	・仲間のためによりよい方法を考え、分かりやすくまとめようとしている。 (思)【学習方法カード】
9月13日 (火)	放課後 (学級活動委員会)	・「効果的な学習方法」をまとめた資料を作成する。 ・本時の進め方を確認する。	・分かりやすい資料が作成できるようにする。本時の流れを確認し、活動の見通しがもてるようにする。	・学級全体が関心をもって臨めるよう、自主的に準備を進めようとしている。(関)【観察】

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア 本時の活動テーマ「自分に合った学習方法を見つけよう」

イ 本時のねらい

○効果的な学習方法を発表し合う中で、自己有用感を味わうことができるようにする。

○仲間の発表を生かし、自分の学習方法を見直し、家庭学習への意欲を高める。

ウ 展開

	活動の内容	・指導上の留意点 ◎目指す生徒の姿(観点)【評価方法】	資料等
活動の開始	1 本時の活動を知る 2 本時の活動の流れの確認	・教師が本時のねらいを説明し、学級活動委員を紹介する。 ・学級活動委員より、「資料説明」「発表に当たっての注意」「聞き方のポイント」を加えて本時の流れを説明する。	・学習方法をまとめたプリント
活動の展開	3 家庭学習の方法の紹介 ○効果的な時間の使い方 ○全教科に共通する方法 ○各教科特有の方法 4 自分に生かしたい学習方法の発表	・日課表を提示し、どの時間帯に学習するのかを視覚に訴える形で説明できるよう助言しておく。 ◎自分のノートや部屋に掲示してあるもの等を利用し、工夫した発表ができる。 (思) 【観察】【ワークシート】 ◎発表を真剣に聞き、仲間から学ぼうとしている。 (関) 【観察】【ワークシート】 資料④ ワークシート ◎仲間の発表から自分に生かせそうなものを選び、発表できる。 (思) 【観察】【ワークシート】	・発表資料 ・ワークシート
<p>【本時の話合いの様子】</p> <p>S1: ○○さんの○○の方法を実践してみたい。この方法なら自分にもできそうです。ありがとう。</p> <p>S2: 今までワークに直接答えを書いてしまっていたけれど、今度からは別のノートに何回もやり、直前にワークに書き込んで提出できるようにしたい。そうすれば今までより覚えられそう。単語や漢字練習の後に自己テストをして確かめる方法もいい。</p> <p>S3: いつも眠くなってしまふから帰ってすぐにやる方法を今日からやってみよう。まず30分からやってみようと思う。</p>			
活動のまとめ	5 これまでの反省と具体的な実践方法の決定 6 教師の話	◎自分なりの実践方法を見だし、ワークシートに記述し、進んで取り組もうとしている。(知)(思)【観察】【ワークシート】 ・本時の活動を振り返るとともに、今後の実践への意欲が高まるよう励ましの言葉をかける。	仲間の実践を称賛したり、自分が利用したい方法や感謝の気持ちを発表し合ったりすることから、学習方法の相互評価ができ、互いのよさを学び合う態度を育てることができる。

(3) 事後の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
9月15日(木)より毎週	朝の会(学級全体)	・実践目標の達成度を自己評価する。	・一週間ごとに自己評価を行う。 ・教師の励ましの言葉を添える。	・次の週はさらに努力していこうという意欲がもてる。 (関)【自己評価表】
話合い活動後2~3週	学級通信 学級新聞	・学級全体の前向きな活動から個々の意識の向上を図る。	・活動の内容を家庭に伝えることにより、家庭の協力を得ながらさらに学習意欲を高め、実行できるようにする。	・仲間の頑張りや家族からの励ましを支えにし、強い意志で実践している。 (思)【自己評価表】

6 資料等

①家庭学習に関するアンケート (例)

**「今の家庭学習を見直そう」アンケート**

名前 ( )

①家庭学習をやった方がよいと思いますか。  
ア 思う ( ○ )      イ 思わない (   )

②あなたは進んで家庭学習をしていますか。  
ア 宿題を含めほとんどしない (   )  
イ 宿題はするが進んで自分から学習はしない ( ○ )  
ウ たまに進んで学習をする (   )  
エ ほぼ毎日進んで学習をする (   )  
オ 毎日必ず進んで学習をする (   )

③自分にあった家庭学習の方法がわかっていますか  
ア わかっている (   )      イ わからない ( ○ )

④家庭学習で困っていることや知りたいことを自由に書いてください

- ・今の方法が自分に合っているのか不安。
- ・勉強方法がわからない。
- ・いくらやっても苦手なところが無くならない。
- ・やろうとは思うのだが集中できなかつたり眠くなつたりしてできない。
- ・意志が弱い。
- ・家族などの周りのプレッシャーが辛い。
- ・あれもやらなければ、これもやらなければと思うと今の勉強に集中できない。
- ・理科社会が楽しいと思えない。
- ・数学でわかっているつもりなのにミスをしてしまう。
- ・漢字がなかなか覚えられない。
- ・一度に覚えられない。

②学級活動委員会の評価カード (例)

学級活動委員会評価カード

**「自分にあった学習方法を見直そう」**

A よくできた B できた C あまりできなかった

氏名 (   ○ ○ ○ ○ )

評価項目	評価	感想
友達の悩みを踏まえた上でやる気がさらに高まるような呼びかけができたか。	B	誰もが同じ悩みを抱えていることを伝え、一緒に頑張ろうと訴えることができたが、全員にやる気が出たかあまり自信がない。
資料作りや進行の打合わせなど、準備がよくできたか。	A	
当日の進行や自分の役割がしっかり果たせたか。	A	
先生より 他の人と協力してしっかり準備ができ、当日の進行もスムーズにできました。ご苦労様。		

③学習方法カード (例)

**私のおすすめの勉強法はこれだ**

漢字・単語は、これでパッチリ
紹介者 (○○○○)

- 1 最初に10個くらいテストをする。
- 2 間違えたところを覚えられないまで練習する。
- 3 練習が終わったら再テストをする。
- 4 また、間違えたところを練習し、再テストをする。

★ これをずっと繰り返す。単語は毎日やるといいよ。

④授業用ワークシート (例)

**自分にあった学習方法を見つけよう**

名前 ( )

★自分の発表、聞き方を振り返ろう(自己評価)

評価：よくできたA      できたB      できなかったC

・発表用のカードや資料が分かりやすくまとめられた。	B
・自信をもって大きな声で分かりやすく説明できた。	A
・みんなによく分かってもらえるように、資料を使うなど工夫した発表ができた。	C
・仲間の発表を思いやりをもってしっかりと聞き、自分に生かせるものを見つけることができた。	B

★友達の紹介してくれた学習方法で「いいな」「生かせるな」と思ったものはどれ？

自分でテストをし、できなかった単語をひたすら練習。さらにテストする。  
ワークではなくノートにやり、テスト直前にワークをやる。  
どうしても覚えられないものは、トイレにはって声に出して毎日読む。

★今までの自分の家庭学習で、見直すところはどこだろう？

「やらなくたっていいや」と思っていた。勉強方法がわからなかった。  
いい点を取りたいとは思っているけれど、漢字練習などをやるとすぐにあきてしまってやめてしまった。

★今日から実践することをまとめよう      ★実践できているかな？

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>時間を決めて勉強する。 教科書を何回も読み、太字に線を引く。 線を引いた太字を何回も書く。 ワークはノートを使って何回もやる。</p> </div>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 15%;">1 週後</td> <td style="width: 25%;">今日からやる</td> <td style="width: 60%;">担任印</td> </tr> <tr> <td>2 週後</td> <td></td> <td>担任印</td> </tr> <tr> <td>3 週後</td> <td></td> <td>担任印</td> </tr> <tr> <td>中間を終えて</td> <td></td> <td>担任印</td> </tr> </tbody> </table>	1 週後	今日からやる	担任印	2 週後		担任印	3 週後		担任印	中間を終えて		担任印
1 週後	今日からやる	担任印											
2 週後		担任印											
3 週後		担任印											
中間を終えて		担任印											

先生より

友達のアドバイスを自分に生かして、目標が立てられましたね。自分の意志を強くもって、今日から頑張らしましょう。応援していますよ。

資料等を用いて工夫した発表ができ、仲間に分かりやすく伝えられた場合、また、説明を集中して聞き、内容をしっかりと理解できていた場合【思考・判断・実践】【関心・意欲・態度】の観点について、十分満足できる状況ととらえることができる。

これまでの自分の欠点や、甘える心をしっかりと見つめている。それを踏まえた上での具体的実践の記述から【知識・理解】【思考・判断・実践】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

自分の決めた実践が着実に進められているか、1週間ごとに自己評価をする。その都度担任から励ましの言葉を添え、継続して進められるようにする。

**事例4 生徒会活動 小学校6年生に生徒会活動を紹介する事例(小中連携を促進し、中1ギャップの解消を目指して)**

本事例は、小学校6年生のアンケートで把握された「中学校に対する興味・関心」を高めるとともに、「中学校に対する不安」を解消し、希望や目標をもって入学してくることをねらいとした取組である。また、中学生にとってもこの活動の準備や説明に参加することにより、自校に対する誇りを高め、所属感を深めることも目指している。

**1 活動名** 生徒会活動のオリエンテーション(新生生の皆さん!〇〇中学校へようこそ!!)(1)生徒会の計画や運営

**2 指導のねらい**

- (1) 中学生が自校の生徒会活動や学校行事を小学生に分かりやすく説明し、進級する自覚をもつ。
- (2) 上級生や生徒会役員としての責任や役割などについて考え、思いやりの心をもつ。
- (3) 中学校の全校生徒が自校の生徒会活動や学校行事に関心をもち、自校に対する誇りを高め、所属感を深める。

**3 評価の観点と評価規準**

観点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
評価規準	自校の生徒会活動や学校行事に関心をもち、小学生に分かりやすく説明しようとしている。	上級生や生徒会役員としての責任や役割などについて考え、中学生としてふさわしい態度で実践している。	Welcome 会の意義や自分たちが参加する意味を理解している。

**4 活動内容**

(1) 事前の活動

小学校6年生の実態を知るために、事前にアンケートをとり、集計しておく。

期 日	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
2月22日(水) 放課後 (生徒会役員会)	○Welcome 会の実施計画の作成する。 ・ねらい ・日時 ・場所 ・会の内容 ・事前準備の内容 ・当日までの日程 ・役割分担 ・小学生のアンケート結果等	・小中連携担当者がねらいなどを生徒が理解できるように説明する。 ・事前に話合いの手順等の打合せを生徒会長と十分に行っておく。	◎ねらい等をよく理解し、話合いが深まるよう自主的に準備を進めようとしている。(関)【観察】
3月2日(金) 放課後 (中央委員会)	○Welcome 会実施計画の提案・承認する。 ・各委員長、学級委員へのねらい、日時、役割分担等の提案と承認	・Welcome 会の内容を周知・徹底できるようにする。	◎ねらい等をよく理解し、話合いが深まるよう自主的に準備を進めようとしている。(関)【観察】
3月7日(水) 6校時 (全校生徒)	○Welcome 会の集会実施計画の準備をする。 (1年)1年間の中学校生活を振り返った作文の作成 (2年)全生徒が役割分担をして、パンフレットの原稿作成 (3年)1日入学の教室・廊下の掲示物の作成・装飾	・自分の新生生のころの気持ちを思い出させ、意欲的に準備に取り組めるようにする。 全生徒で取り組む体制を生徒会役員が中心となって、つくれるようにする。	◎上級生としての責任や役割などについて考え、準備や説明を適切に行える。(思)【観察】
3月7日(水) 放課後 (生徒会役員会)	○Welcome 会実施計画の準備をする。 ・パンフレットの原稿の集約 ・読み原稿の確認 ・手紙選択	・生徒会長を中心に、生徒が自信をもち、小学校6年生が理解できるように準備をする。	◎生徒会役員としての責任や役割などを自覚し、小学校6年生の立場になって準備できる。(思)【観察】
3月16日(金) 放課後 (生徒会役員会)	○Welcome 会実施計画の準備をする。 ・パンフレット・手紙の印刷 ・リハーサル	・生徒会長を中心に、分かりやすく、円滑に説明できるよう準備を綿密にする。	◎小学生に分かりやすく説明しようとしている。(関)【観察】

小学校6年生の学級担任に、会の意義や参加する心構えについて指導してもらっておく。

異年齢集団による交流活動は、上級生としての自覚や責任、下級生としての役割などを考えながら、人間関係について学ぶことが多い。

自分の1年前のことを思い出し、6年生が不安を吹き飛ばし、希望を膨らませられるような内容にする。

(2) 当日の活動 (Welcome会次第)

- ①開会のことば (児童会役員) (場所：)
- ②小学校長あいさつ ○○小学校体育館)
- ③児童代表あいさつ
- ④生徒会活動の紹介
  - ・生徒会本部・各委員会の説明
  - ・部活動の説明 ・学校行事の説明
  - ・中学1年生からの手紙(2、3人)
- ⑤質疑応答
- ⑥児童代表お礼のことば
- ⑦閉会のことば (児童会役員)

[中学1年生からの手紙]

- ・中学校の授業・生活について (小学校との違い)
- ・中学校の委員会・係・部活動・学校行事について
- ・中学校で一番うれしかったこと、楽しかったことについて
- ・中学校で一番困ったこと、その解決の仕方について など

Welcome 会終了後、小学校6年生が帰りの会で、ワークシートへの記入とお礼の手紙の作成を行ってくれるように、小学校に依頼する。(資料①)

(3) 事後の活動

	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
3月21日(水) 給食時	○放送委員による昼の放送で、代表児童のお礼の手紙の朗読する。	・小学生の思いが受け止められるように真剣に聞く。	◎Welcome会の意義や自分たちが参加する意味を理解しようとしている。 (知)【観察】【振り返りカード】 資料②
3月21日(水) 帰りの会	○Welcome会の準備に参加した全生徒の感想を記入する。	・指導のねらいが達成できたか確認する。	◎Welcome会の評価と課題、その解決について話し合いを深めようとしている。(思)【観察】
3月21日(水) 放課後 (生徒会役員会)	○Welcome会実施計画をまとめる。 ・評価と課題について ・課題の解決について ・生徒会だよりの発行	・自主的な話し合いが行えるよう、話し合いの手順等を生徒会長と事前に十分に打合せておく。	◎ねらい等をよく理解し、話し合いが深まるよう自主的に準備を進めようとしている。(関)【観察】
3月28日(水) 春休み (生徒会役員会)	○新入生歓迎会の実施計画を作成する。 ・ねらい ・日時 ・場所 ・会の内容 ・事前準備の内容 ・日程 ・役割分担 等	・Welcome会の課題を生かし、新入生歓迎会が行えるようにする。	

5 資料

①小学6年生の感想&お礼の手紙(例)

Welcome会に参加して  
6年組 番名前 \_\_\_\_\_

1. 今日参加して、改めて気づいたこと、わかったことは何ですか?  
① 一つ上の先輩も同じ悩みをもっていた。  
② 部活動は、やっぱり楽しそうだった。  
③ 学校行事は自分たちでやっていく。

2. 今日の感想  
先輩たちの説明が分かりやすく丁寧だったので、大変参考になりました。心配が小さくなりました。中学校に入学するのが楽しみです。

3. 説明してくれた先輩にお礼の気持ちを書こう。

②中学生の感想(振り返りカード)(例)

Welcome会に参加して  
1年組 番名前 \_\_\_\_\_

1. 今回のWelcome会の準備に参加して、改めて気づいたこと、わかったことは何ですか?  
① 1年前、自分も授業など不安だった。  
② 1年間で中学校の生活になれた。  
③ 部活動は、すごく楽しかった。

2. 今日の感想  
お昼の放送を聞いて、自分たちが心をこめて書いた作文が、小学生にわかってもらえたとし、喜んでくれたのでよかった。

3. 4月から、どんな先輩になりたいですか。

事後の活動  
「心をこめて書いた作文が小学生に伝わり、喜んでもらえてよかった」といった記述から、【知識・理解】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

**事例5 学校行事 (3)健康安全・体育的行事) 大規模な地震を想定した避難訓練の事例**

予想を超えた未曾有の巨大地震の経験から、学校には、これまでの想定にとらわれることのない、ありとあらゆる可能性を考慮した避難訓練の実施が求められている。ここでは、各校が避難訓練を実施するための指導計画作成に当たって、学校行事としての避難訓練の標準的な流れに今後配慮していくべき点・留意すべき点を加味している。

**1 学校行事名 「避難訓練」 (内容(3)健康安全・体育的行事)**

**2 ねらい**

管理職による指導の下、安全教育主任・教務主任・学年主任等で協議の上、実施計画を作成する。

- (1) 災害発生時(地震)の基本行動を身に付ける。
- (2) 避難経路や安全な避難の方法を理解させ、指示に従って速やかに行動できるようにする。
- (3) 防災に対する意識の高揚を図り、安全に気を配る態度を養う。

**3 評価の観点と評価規準**

観 点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
評 価 規 準	地震発生時の安全確保を中心とした 防災に関心を持ち、自主的、自律的に 避難訓練に取り組もうとしている。	学級や学校の一員としての自覚をも ち、地震発生時の安全な避難方法を考 え、判断し、協同して実践している。	避難訓練のねらいを踏まえて避難経 路や避難方法などの地震発生時の基本 行動について理解している。

**4 実施計画**

- (1) 期日 平成〇年9月1日(木) 第2・3校時
- (2) 場所 学校内各授業場所(普通教室、特別教室、校庭、体育館等の各施設)
- (3) 参加学年 全学年(今回は授業中の地震発生を想定するため、主として学級単位となる)

休み時間や放課後、登校時などを想定した避難行動を考える時間を設けることも必要である。



**5 活動内容と方法**

休み時間や放課後、登下校時など、様々な場合を想定した訓練を計画的に実施していく。

- (1) 活動内容 ①通報訓練 ②避難訓練  
【想定】地震発生(震度5弱以上)

学校防災マニュアル(平成23年9月・埼玉県教育委員会作成)は、震度5弱以上の大規模地震を想定した対応を紹介している。

- (2) 事前の指導と生徒の活動

期	事前の指導(教師)と生徒の活動(学級・生徒会活動)	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
7 月 12 日 (火)	<b>学級活動(略案)</b> 活動の主体:学級 内容(2):心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 1 題材「地震発生時の対応」 2 ねらい <b>資料① 学級活動カード</b> (1)地震発生時の様々な危険を予見する。 (2)地震への危機意識を高め、適切な避難行動を考える。 3 本時の展開 (1)経験や体験から地震についての知識を発表し合う。 (2)地震災害の画像資料を見て、感想を発表する。 (3)地震発生時に予想される周囲の状況について話し合う。 ア 学校内の状況 イ 家庭の状況 ウ 周辺地域の状況 (4)地震発生時に、どのように行動したらよいか話し合う。 (5)話合いの結果、分かったこと、学んだことをまとめる。	○事前に全校・学年朝会(集会)会等の機会を設定し、校長や教頭、学年主任等からの講話の話題とし、生徒の意識化を図る。 ○教師や学級活動委員会から震災のVTRや写真を提示し、災害の恐ろしさを自覚できるようにする。 ○日中(昼間)に震災が発生した場合の家庭・地域社会での中学生の果たす役割について考えさせる。	・自分の生活行動を見直して、自ら安全に配慮し、危険を予測できる力や的確に行動できる力を高めようとしている。 (関)【観察】 ・災害時の安全に関することについて考え、対処方法を見いだしている。 (思)【学級活動カード】 ・安全や危険予測について理解を深めている。 (知)【学級活動カード】
7 月 14 日 (木)	<b>生徒会活動(略案)</b> 活動の主体:安全委員会(各種委員会) 内容(4):学校行事への協力 1 議題「避難訓練への協力の仕方を考えよう」 2 ねらい <b>資料② 委員会活動記録</b> 避難訓練への協力として委員会が行う具体的な活動内容を決定する。 3 展開 進行:委員長、副委員長 (1)避難訓練への協力の具体的な活動について話し合う。	○年間活動計画作成時に学校行事「避難訓練」への協力を位置付けておく。 ○避難訓練の概要(事前・当日・事後の活動)を知り、どのような協力ができるかを話し合わせる。 ○事前・事後の学年・学級	・学校行事としての避難訓練の趣旨を理解し、他の生徒と協力して自主的に取り組もうとしている。 (関)【観察】 ・学校や学年の一員としての自覚をもち、避難訓練の意義について考え、判

特別活動

ア 事前(当日まで)の活動…学年・学級への連絡・啓発等	との連絡調整や当日の準備・片付け等への取組が可能なことに気付かせる。	断し、実践している。 (思)【委員会活動記録】
イ 当日の活動…物品の準備、教師の補佐、学級への指示等		
ウ 事後の活動…感想まとめ、行事の評価、訓練後の啓発等		
(2) 具体的な取組の決定		
避難訓練実施当日までの学級活動や朝の会・帰りの会等で事前指導を済ませておき、直前の指導を行わずに訓練に入ること、より危機意識を高める。		
(3) 当日の活動		

時間	活動内容	○指導上の留意点 ◎目指す生徒の姿(観点)【評価方法】
10:40	◎地震発生〔想定〕震度5弱以上 1 緊急放送(第1報) 地震発生中 「訓練、訓練。ただ今、大きな地震発生。落ち着いて教師の指示に従い、次の放送を待ちなさい。」 【安全確保】教師による危険回避の指示、不安の緩和 ・机の下に避難する ・窓を閉め、カーテンを束ねる ・消灯する ※出口確保、二次災害防止(電気・ガス)	気象庁は、震度5弱以上と予測された時、緊急地震速報を發表する。音源を入手しての緊急地震速報を利用した避難訓練や校内放送を使用しない避難訓練の実施も考えられる。 ○以下の内容について事前指導を済ませておく。 ・避難訓練のねらいと流れ ・避難経路・集合場所 ・避難時の注意点(「おかしもち」等) ◎落ち着いて教師の指示や放送を聞こうとしている。 (関)【観察】
10:42	2 避難指示(第2報) 放送、拡声器、伝令等による。 「地震による校舎の損壊、火災発生の危険がありますので、教師の指示に従って速やかに校庭に避難しなさい。」 3 安否確認(教師：全体を見渡す 生徒：顔を見せる) 4 教師の避難指示(教師「校庭へ避難します、整列!」) 5 避難(校庭へ) 学校災害対策本部の設置(管理職) ・廊下等に整列し、学級委員・安全委員等を先頭に避難を開始する。 ・教師の誘導の下、避難経路に従って避難する。	放送が使用できない場合も考慮して、拡声器や伝令等による避難指示も経験しておきたい。 ○授業場所(普通教室、特別教室、体育館など)の状況によって最も安全だと考えられる対応を行う。 ○教師は指示とともに生徒を落ち着かせる言葉かけを行い、生徒に教師のいる位置・方向を知らせる。 管理職を中心に緊急に設置する。(避難場所) ○安否を確認後、廊下に整列させ、付近の授業担当教師と順番を確認して避難させる。
10:55	6 安否確認(校庭) ・整列 ・点呼(一人ずつ必ず顔を確認して呼名する) ・安否報告「2年2組、在籍32名、欠席0名 計32名 避難完了」 ・応急手当 ・不安の緩和 【遭難者の救護】 訓練時のオプションとして、様々な状況を想定して実施する。 ※行方不明1名 教師の救助チームによる捜索・発見・救助・応急処置	途中で障害(通行不可)を設け、とっさの判断が必要な場面を設定することも考えられる。 ○教師は必ず生徒名簿を携行する。 ○教職員の連携により誘導・初期消火・検索等を行う。 ○人員点呼して確認できた学級から座らせていく。 ○「教科担任→学年主任→教頭→校長」の順で報告する。 ○地震発生から計時を開始して避難完了までの所要時間を計測する。 実態に応じて目標時間を設定する。
11:00	7 全体指導 司会：○○教諭 ・避難時間の報告と避難自体の評価(教頭) ・指導「震災に備えて」(担当教師) 震災発生時の避難後の動きについて確認 ・説明 ▶下校・帰宅する場合 ▶学校に留め置く場合 ※保護者への連絡手段(状況によって異なる) ※引き渡しの場合の流れ・約束事 ・講評(校長) ・解散(昇降口で上履きを拭いて学級の教室に戻る)	◎学級や学校の一員としての自覚をもち、安全な行動の仕方について考え、判断し、実践している。 (思)【観察】 地元消防署と連携して専門的な立場から指導してもらうこともできる(避難ばしごの使用・消火訓練等も付加できる)。 学校として保護者と共通理解している「自校の震災発生時の約束事」を全生徒に周知徹底する。 ○震災発生時の約束事を確認する。 ◎震災発生時の避難の仕方、約束事を理解している。
11:20	8 まとめ ・自己評価カード「避難訓練を終えて」を記入する。 ・学級担任教師の「本学級に対する評価」を聞く。	(知)【自己評価カード】 ○学級に戻り、学級担任の指導の下、訓練を振り返る。 ○自己評価カードは、回収して学級担任の評価や生徒の事後の活動(学級活動・学級通信等)に役立てる。

(4) 事後の指導と生徒の活動

期日	事後の指導(教師)と生徒の活動(学級・生徒会活動)	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
----	---------------------------	---------	--------------

9月6日(火)	<b>学級活動 (略案) 活動の主体：学級</b> 内容(2)キ:心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 1 題材「災害への備えと協力」 <b>資料④学級活動カード</b> 2 ねらい <b>資料③自己評価カードの記述を活用</b> 災害発生時の避難や連絡方法、非常持ち出し品等、防災についての意識を高める。 3 本時の展開 (省略) <b>家庭や地域での災害時の備え(避難、物品等)について話し合う。</b>	○評価カードを返却し、生徒個々が自身の活動を振り返り返すようにする。 ○学校生活以外での災害発生時の対応や果たす役割についても考えさせる。	・災害時の安全に関するこ とについて考え、対処方 法を見いだしている。 (思)【学級活動カード】 ・安全や危険予測について 理解を深めている。 (知)【学級活動カード】
9月8日(木)	<b>生徒会活動 (略案) 活動の主体：安全委員会(各種委員会)</b> 内容(1)：生徒会の計画や運営 1 議題「校内の防災意識を高めよう～避難訓練を受けて～」 2 ねらい 避難訓練後の校内の防災の意識を高める活動を考える。 3 内容 避難訓練の反省と校内の防災意識を高める話し合い。	○避難訓練の体験から各自が感じたことを率直に発表し、話し合いのヒントとしていく。 ○委員会として取組が可能なものについて具体化していく(計画、広報、実行)。	・委員会の活動に関心をも ち、他の生徒と協力して 自主的に取り組もうとし ている。(関)【観察】 ・委員会として果たす役割 を理解している。 (知)【委員会活動記録】

## 6 資料等

### ①学級活動カード (事前の活動)

学級活動カード「地震発生時の対応」

〇年〇組〇番 氏名 〇〇 〇〇

- 震災(地震)について知っていること  
津波の発生、家屋の倒壊、停電、通信手段の断絶、交通機関の麻痺
- 地震災害の資料を見ての感想  
想像を超える被害。普段の生活から対策を考えなくてはならないと思う。
- 地震(震度5弱以上)発生時に予測される周囲の状況
 

学校内	緊急避難、建物の損壊、火災発生、家庭との連絡が取れない
家庭	仕事に出ている家族が帰宅できない、家屋の損壊があるかもしれない。
周辺地域	道路の波状化等による通行止め、火災発生、交通機関ストップ
- 地震発生時の行動
 

場所	どのように身を守るか	揺れが収まってからどうするか
学校(授業中)	机の下にもぐる	先生の指示に従って避難する
学校(部活動中)	落下物のない所へ動く	部員間で点呼し人員を確認
学校(休み時間)	近い教室の机にもぐる	指定された避難場所に向かう
登下校中	倒壊物のない所へ動く	安全な場所に向かう
家(就寝中)	倒壊物のない所へ動く	
- 話し合いをしてわかったこと・学んだこと  
まずは落下物等の危険から自分の身を守ることが必要だということ

「落下物等の危険から自分の身を守ること」他、落下物・倒壊物  
 を避ける意味合いの記述が随所に見られることから、【思考・判断・  
 実践】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

### ②委員会活動記録(定例会共通)※事前の活動での記入例

委員会活動記録 安全委員会 平成〇〇年〇月例会 〇月〇〇日

〇年〇組〇番 氏名 〇〇 〇〇

- 本日の議題  
 避難訓練への協力の仕方を考えよう
- 活動内容
  - 当日までの活動  
学級への連絡や呼びかけ、担当の先生の補佐
  - 当日の活動  
必要な用具の準備、先生の補佐、  
消火訓練・避難ばしご訓練への参加
  - 終了後の活動  
ポスターの作成・掲示、集会での啓  
発、評価カード類の集計

委員長や副委員  
 長、書記による板書  
 に従って記入させる
- 学年や学級への連絡・伝達事項  
 避難訓練の連絡(避難経路の確認をしておくこと、当日の予定)

活動記録全体にわたって委員会では話し合った内容(議題、活動内容、  
 連絡・伝達事項等)がもれなく記録されていることから、【関心・意欲  
 ・態度】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

### ③自己評価カード

自己評価カード 避難訓練を終えて

〇年〇組〇番 氏名 〇〇 〇〇

- 避難訓練のねらいを受けての私の目標  
先生の指示を聞いて、クラスのみならずともすぐに行動して避難場所に集  
合する!
- 避難訓練の評価
 

No.	評価項目	自己評価
1	避難訓練のねらいを理解していた。	(A)・B・C
2	先生の説明・指示をよく聞き、真剣に訓練に参加した。	(A)・B・C
3	地震発生時、指示に従って直ちに机の下にもぐった。	(A)・B・C
4	「おかしもち」の約束を守って避難することができた。	(A)・B・C
5	ヘルメットやハンカチ等、必要なものを携行して避難した。	(A)・B・C
6	本校の避難経路を理解している。	(A)・B・C
7	避難中に障害物があったが、適切に経路変更し避難できた。	A・(B)・C
8	校庭の避難場所に行き、適切に点呼・整列ができた。	A・(B)・C
9	震災発生時の本校の避難後の動きの約束事を理解している。	(A)・B・C
- 全体の感想  
避難経路に障害物があったので、クラスのみならずとも行動がバラバラになっ  
てしまった。みんなで直ちに判断して行動することが今後の課題になると思う。

自己評価のほとんどが「A」であり、「B」とした評価項目につい  
 ても感想欄の記述で「みんなで直ちに判断して行動することが今後  
 の課題になる」と課題として認識していることから、【思考・判断・  
 実践】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

### ④学級活動カード (事後の活動)

学級活動カード「災害への備えと協力」

〇年〇組〇番 氏名 〇〇 〇〇

- 避難訓練を終えて
 

評価できる点	改善を要する点
先生の指示をよく聞いて、警報後す ぐに行動できた。	避難経路を避難中に通行できない所 があり、判断に迷ってしまった。
- 災害発生時の行動(どのように動けばよいのか)  
教室では机の下にもぐり、他の場所では、落下や倒壊する物のない場所にす  
ぐに動くことが大切。予想外のことが起きた場合も、とっさに冷静に判断す  
ることが必要。他の人に頼ってばかりでは、判断が遅くなる。
- 災害の備え(どのようなものを準備しておけばよいか)  
厚い本(落下物に備える)、懐中電灯、緊急避難食(乾パンやクラッカー  
など)、水など準備しておく。
- 中学生としての私にできること  
昼間に震災が発生したら、地元には働きに行っている大人の人がいない  
ので、帰宅後は自分の家を守ったり、近所の人の力になつたりしたい。

「帰宅後は自分の家を守ったり、近所の人の力になつたりしたい。」  
 との記述で、学校での避難訓練への取組から得た知識を、家庭や地  
 域社会での実生活にわたって考えていると認められることにより、  
 【知識・理解】の観点について十分満足できる状況ととらえること  
 ができる。

特別活動

**事例6 学校行事（(4)旅行・集団宿泊的行事） 自然を体験し、人との絆を深める活動の事例**

本事例は、生徒が平素は自然に触れ合う機会が少ないことから豊かな自然に触れ合う機会を作り出すために実施している自然教室である。宿泊を伴う集団生活において自然の大切さを学ばせるとともに、人との絆を十分に深めさせることや、実行委員を中心として自分たちの生活を自分たちでつくり上げていこうとする意識をもたせることができる活動である。

**1 学校行事名 自然教室（(4)旅行・集団宿泊的行事）**

**2 ねらい**

- (1) 自然の中での集団生活を通し、規範意識を育むとともに、学年・学級の団結力を高め、人間関係を深める。
- (2) 事前の準備、現地での体験活動を通し、自主的、自律的な態度を育成する。

**3 評価の観点と評価規準**

観 点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評 価 規 準	自然教室において、生徒同士や対教師など、人との絆や信頼関係を深め、自律的な態度をもって自主的に活動しようとしている。	平素と異なる生活環境の中での行動の在り方や人間としての生き方などについて考え、判断し、協同して実践している。	望ましい集団生活のあり方や人を大切にしながら絆を深めることのよさを理解している。

**4 実施計画**

- (1) 期日 平成○年6月20日（月）～6月23日（木）
- (2) 場所 奥日光自然の家
- (3) 参加学年 2学年 計○○名

**5 活動内容と方法**

- (1) 活動内容
  - 1日目 開校式・施設点検    2日目 班別ハイキング
  - 3日目 コース別活動(野外炊事・ハイキング・写生)    4日目 大掃除・閉校式
- (2) 事前の指導と生徒の活動

期日	事前の指導(教師)と生徒の活動(学級・生徒会活動)	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
5月12日 (木)	<p><b>○学級活動(略案)</b> 活動の主体:学級</p> <p>1 議題「自然教室の目標ときまりについて考えよう」</p> <p>2 ねらい 自然教室を成功させるための目標ときまりを考える。</p> <p>3 本時の展開 —活動の開始— (1) 実行委員の原案と提案理由を聞く。 (2) 教師が生徒に身に付けてほしい力を伝える。 —活動の展開— (3) 自然教室の目標ときまりについて話し合う。 —活動のまとめ— (4) 目標ときまりについて学級としての意見をまとめ、実行委員会に再度回ることを確認する。 (5) 教師の話(話し合いの評価)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実行委員会の原案をもとに、自然教室を全体で成功させるために、生徒が主体的に目標ときまりについて話し合えるように場と時間を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議題に関心を持ち、自主的に自己の考えをまとめようとしている。 (関)【観察】</li> <li>・ 提案理由に基づいて、自然教室を成功させる視点で意見を述べている。 (思)【観察】</li> </ul>

目標ときまりを丁寧に考えさせることで規範意識を育てる。  
現地でも、自分たちで決めたきまりが守れなかった時には実行委員が中心となって呼びかけができ、みんなで決めたきまりをみんなで守ることができるように意識を高める。

5月12日 (木)	<b>○実行委員会</b> 各学級から出た意見を持ち寄り、目標ときまりを決定する。	・学年全体のことを考えた目標ときまりを、各学級の意見を尊重しながら、適切に決められるように適宜示唆する。	・各学級の意見をもとにしながら、自然教室を成功させる視点で意見を述べている。(思)【観察】
5月19日 (木) 26日(木)	<b>○学級活動</b> 日光の学習(新聞作成と発表会) 班で協力して新聞を作成する。	・資料の準備と指導	学習を通じて環境を大切にしようとする気持ちを育てる。
5月26日 (木)	<b>○生徒会活動・実行委員会</b> 内容(4)学校行事への協力 各専門委員会できりの担当箇所を作成する。 実行委員会はキャンプファイヤー・開校式・閉校式等の準備をする。	・主体的に活動できるように役割分担を行う。	・自然教室を成功させるために主体的に活動している。(思)【観察】
6月9日 (木)	<b>○学級活動(略案)</b> 活動の主体:学級 1 議題「キャンプファイヤーのスタンプを決めよう」 2 ねらい キャンプファイヤーを成功させるための学級のスタンプを考える。 3 本時の展開 —活動の開始— (1) 学級活動委員の原案と提案理由を聞く。 —活動の展開— (2) キャンプファイヤーのスタンプについて話し合う。 (3) 学級のスタンプを決定し、練習する。 —活動のまとめ— (4) 教師の話(話し合いの評価)	・キャンプファイヤーでのスタンプを決める中で学級でのまとまりをつくれるように助言する。	・議題に関心を持ち、学級の一員として話し合いに参加している。(関)【観察】
		<p>キャンプファイヤーのスタンプは、自然教室の中で、学級がまとまって一つのものをつくりあげることにより、学級の凝集性を高める大切な活動である。</p> <p>3泊4日の自然教室の最後の夜に、感動的なキャンプファイヤーをつくりあげるために全員で協力することの意義を感じさせる。そのために、異なる意見を尊重しながら、学級が一つにまとまるように話し合いを進めさせる。</p>	
6月17日 (金)	<b>○学年集会</b> 自分たちで決めた目標ときまりを確認する。 荷物や集合時間など最終の確認を行う。	・これまでの準備をもとに自然教室を成功させようとする意欲を高める。	

(3) 当日の活動

期日	活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
6月20日 (月)	開校式・入浴・夕食 実行委員会・班長会 係分担ごとの打合わせ	・それぞれの役割分担で主体的に運営できるようにする。 ・自分たちで決めときまりを守れない場合には、教師の指導に加え、実行委員会・班長会で話し合った対応策を実行できるようにする。	実行委員や班長の悩みを全員で共有しながら、自然教室を自分たちの力で成功させるために、実行委員や班長が全体に呼びかけられるように助言する。
6月21日 (火)	班別ハイキング 実行委員会・班長会	・しおりで再度行動のきまりを確かめ、安全面に十分配慮して行動できるようにする。 ・班長を中心として計画どおりに実施できるようにする。	・班で協力して安全に注意して、きまりを守りながら実行している。(思)【観察・日記】

6月22日 (水)	コース別活動(野外炊事・ハイキング・写生)  キャンプファイヤー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班や学級・学年のまとまりを作り出せるよう、一人一人の行動に細かく目を向けて行事を進める。</li> <li>・実行委員を中心に役割の遂行状況を確認できるように助言する。</li> <li>・学級で決めたスタンプが自分たちの力で成功できるように担当の生徒に一連の流れを確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団のことを考え、判断し、共同して実践している。 (思)【観察・日記】</li> <li>・スタンプを成功できるように、学級のために力を合わせて実行する。 (思)【観察・日記】</li> </ul>
6月23日 (木)	大掃除 閉校式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4日間の感謝の気持ちを行動で表すことができるように、清掃にしっかり取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感謝の気持ちを行動に表して、熱心に清掃に取り組んでいる。 (関)【観察】</li> </ul>

#### (4) 事後の指導と生徒の活動

期日	事後の指導(教師)と生徒の活動(学級・生徒会活動)	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
6月24日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価カード記入</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">資料①事後の評価カード</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然教室での目標を達成できたか振り返る中で、自分の成長を確認できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を振り返り、自分の成長を確認することができる。 (知)【自己評価カード】</li> </ul>
6月27日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞作成</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">資料②事後の新聞</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の作成に際しては、作成の要領をきちんと踏まえるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の大切さや人との関わりの大切さを理解している。 (知)【新聞】</li> </ul>
6月30日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめの学年集会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然教室での活動を振り返る中で、学んだことを学校生活へ生かそうとする態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の大切さや人との関わりの大切さなど、自然教室を通して学んだことを学校生活に生かそうとする。 (思)【観察】</li> </ul>

## 6 資料等

### ①事後の評価カード (例)

**次の目標は達成できましたか。自己採点してみましょう。**

名前( )

<大目標> 奥日光で学べ!! 自然と仲間の大切さ

自然の大切さについて      A  B C D

仲間の大切さについて       A B C D

採点理由  
 だいたい自然を大切にすることができたけど、ごみを1回だけ落としてしまった。ハイキングで、自分の具合が悪いときにみんなが助けてくれた。

<小目標>

- ・ クラスの仲を深める       A B C D
- ・ きまりを守って行動する      A  B C D
- ・ 思い出をいっぱい作る       A B C D
- ・ 自分の行動に責任をもつ      A  B C D
- ・ 楽しく過ごす       A B C D

**自然教室で学んだことをこれからの学校生活にどのように生かそうと思いますか。**

自然教室では仲間の大切さを特に学んだ。学校でも、仲間を大切にしながら、きまりを守ってがんばりたいです。

### ②事後の新聞

**作成の要領**

- ・構成は新聞形式で作成する。
- ・内容はただ単に思い出に残ったことを書くだけでなく、「自然の大切さ」「仲間の大切さ」を学んだことが盛り込まれること。

**発表会**

- ・学級で発表会を行い、優れたものを優秀賞として、まとめの学年集会で発表する。



望ましい集団生活の在り方や、人を大切にしながら絆を深めることのよさが新聞に表現されていれば、【知識・理解】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。

「仲間の大切さを学んだ」「きまりを守ってがんばりたい」といった記述から【思考・判断・実践】の観点について十分満足できる状況ととらえることができる。